

人間社会研究科では、情報技術と、行政・経営、映像・音響など他分野との融合領域を網羅した情報社会専攻、心理学の高度でより専門的な知識と技能を持った研究技術者や臨床心理士の養成を目的とした心理学専攻の2専攻を設置しております。また本研究科では、最新の研究設備を備えるとともに、学内外で幅広く先導的に活躍する優れた教授陣が指導にあたります。社会で即戦力として活躍できるプロフェッショナルを養成すると同時に、地域の研究拠点としても活動しています。

情報社会専攻

本専攻には、情報社会学科における教育内容と連動して、情報社会システム教育研究分野とデジタル・クリエイター教育研究分野の2分野があります。各分野では、情報技術力、法律や経済などの社会知識、映像・音響の創造的表現力など幅広い要素を核に、高度な知識と確かな技術を身につけた人材の養成を目指しています。

◆情報社会システム教育研究分野◆

行政知識と経営知識、および、情報技術の習得を知識基盤とした行政情報システムやビジネス情報システムの創成を担う人材を養成します。修了後は、ITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、企業経営とIT戦略の双方に責任をもつCIO（情報統括責任者）など高度な専門的職業人として活躍することが期待されます。

◆デジタル・クリエイター教育研究分野◆

コンピュータ・グラフィックス、コンピュータ・ミュージック、マルチメディアといった最先端のスキルを基礎に、デジタル・クリエイターを養成します。修了後の進路は、映像と音響のコンテンツ制作における専門的職業人および研究技術者などが挙げられ、行政や企業の広報部門、テレビ局をはじめとするマスコミ関連企業といった幅広い分野での活躍を期待されます。

心理学専攻

本専攻では、実験心理学に関連する最先端の研究施設や臨床心理センターを活用して、基礎心理学と臨床心理学の両面から、少人数による徹底した教育・研究を行っています。人間の行動を科学的に解明し、高度な専門知識と技能を持った研究技術者や臨床心理士を養成することに主眼を置いています。

◆実験心理学教育研究分野◆

脳科学、認知科学、行動科学の3領域について深く学び、最新の研究技法を駆使して自ら研究を進めていくことができる研究技術者を養成します。修了者の進路としては、大学、企業の研究機関において活躍できる研究者・研究技術者や心理職公務員などが想定されています。

◆臨床心理学教育研究分野◆

臨床心理学についての専門的な知識と、心理臨床にかかわる場合の姿勢を学び、高度な専門性を求められる職業人としての臨床心理士を養成します。そのために日本臨床心理士資格認定協会より第1種臨床心理士養成課程の指定を受けています。また、臨床心理学教育研究分野の大学院生の臨床実習施設として「埼玉工業大学臨床心理センター」が設置されています。

なお、両研究分野とも、大学院博士課程に進学して研究者を目指す学生に対しての教育も視野に入れております。

2. 人間社会研究科指導内容

情報社会専攻

情報社会システム

教育研究分野

高度の行政知識・経営知識と情報技術を駆使しうる能力の育成を基盤として、知識基盤社会で求められている豊かな創造力と構想力を備えたITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、さらには、企業経営とIT戦略の双方に責任を持つCIO (Chief Information Officer, 情報統括責任者) などの分野で活躍が期待できる人材を養成します。

宮崎 洋 教授	工学修士 (東京大学) 経営学修士 (LEHIGH大学)
◆研究テーマ例 経営戦略/事業戦略/技術戦略 技術管理/経営管理/人材育成管理 企業コンサルティング/経営分析/技術分析 経営学/機械工学	
◆研究指導内容概略 高度な経営知識と情報技術を駆使しうる能力の育成を基盤として、情報社会で求められている豊かな創造力と構想力を備えたITプロジェクト・マネージャーやITコンサルタント、さらには、企業経営やIT戦略に責任を持つCOO (Chief Operating Officer, 最高執行責任者) やCIO (Chief Information Officer, 情報統括責任者) などとして活躍が期待できる人材を養成します。	
◆略歴・学会活動等 株式会社三菱総合研究所を経て平成23年本学教授就任。 日本機械学会、ヘルソナ&カスタム・エクスペリエンス学会理事、 同志社大学ワールドワイドビジネス研究センター共同研究員	

高橋 広治 教授	理学博士 (京都大学)
◆研究テーマ例 星団の進化 コンピュータ・シミュレーション データ解析	
◆研究指導内容概略 高度情報社会である現代においては、膨大な量のデータが刻々と生み出されている。そのようなデータを、人間にとって有用な真に生きた情報として活用するためには、各々の問題に合った適切なデータ処理を高速に行うことができる情報システムが必要不可欠である。そのようなシステムの構築を目指して、コンピュータを使った検索、分類、統計解析、データマイニングなどの様々なデータ処理の手法の開発や、それらの手法を応用した社会現象の分析などをテーマとした研究指導を行う。	
◆略歴・学会活動等 日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院リサーチ・アソシエイト等を経て、平成14年本学助教授就任。 日本天文学会、国際天文学連合(IAU)、情報処理学会会員 平成25年現職。	

宮井 里佳 教授	文学修士 (大阪大学)
◆研究テーマ例 中国浄土教思想 中国仏教の類書の研究 マンガに見られる宗教性について	
◆研究指導内容概略 中国・日本の思想・宗教を対象とし、文献とわけ古典の読解を中心とする。訓読学的研究にとどまらず、古の賢者の思索の後に探求し、研究指導を行う。対話を行うことによって、己の思索を深め、現代の社会に生きる智慧、生きた思想を生み出したい。	
◆略歴・学会活動等 (財) 東方研究会専任研究員、天台宗典編纂所嘱託編輯員、 日本学術振興会特別研究員等を経て、平成14年本学講師就任。 平成17年助教授。 日本仏教学会、日本印度学仏教学会、日本道教学会、 日本中国学会、日本宗教学会等会員、仏教史学会委員 平成25年現職。	

小寺 昇二 教授	経済学士 (東京大学)
◆研究テーマ例 コーポレートファイナンス/スポーツビジネスマネジメント/ ターゲアラウンドマネジメント/企業分析/アセットマネジメント	
◆研究指導内容概略 現代社会において全ての企業(や組織)は、過去のあり方からの多様な変革を求められている。 様々な業種、規模、経営タイプの企業における、多様な実務経験をベースに経営戦略、財務戦略、経営革新について研究指導を行う。特に2020年の東京オリンピック/パラリンピックを控えたスポーツビジネスの変革やその地域経済との共存については重点的な研究を行っている。	
◆略歴・学会活動等 第一生命保険入社、その後資系金融機関、ITベンチャー(CFO)、 千葉ロッテマリーンズ(経営企画室長)、多摩大学大学院経営情報学 研究科客員准教授、JTBなどをを経て平成27年4月本学教授就任。 スポーツ産業学会所属、日本証券アナリスト協会検定会員、 国際公認証券アナリスト	

林 信義 教授

経営学修士（横浜国立大学）

◆研究テーマ例

ビジネスモデル/競争戦略
経営管理/人材マネジメント
財務会計/管理会計/税法

◆研究指導内容概略

企業が持続的に成長していくためには顧客に対して他社よりも優れた価値を提供することが必要である。企業はこのような優位性を獲得することを目指して、開発、生産、物流、販売などの活動を行っている。これらの活動は有機的につながり、備える仕組みを形づくっている。実際の企業活動を調査分析し、優れたビジネスモデルの解明に向けた研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

会計事務所、株式会社日本総合研究所を経て、平成27年本学教授就任 日本税理士会連合会

田中 克明 准教授

修士(情報科学)(早稲田大学)

◆研究テーマ例

知的活動支援システム
文書解析・処理システム

◆研究指導内容概略

人間が行うさまざまな知的活動の支援や、新しい領域の開拓が、コンピュータを利用したシステムによって可能となった。これらのシステムは、データを集める仕組み、データから学習を行う仕組み、学習結果を適用する仕組みなど、様々な仕組みの組み合わせにより構成される。このようなシステムの構築について、研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

東京大学先端科学技術研究センター助教、一橋大学情報基盤センター助教などを経て、平成28年本学准教授就任。
人工知能学会、情報処理学会会員。

河井 理穂子 講師博士(政策・メディア)
(慶應義塾大学)

◆研究テーマ例

情報ネットワーク社会における法的課題
— デジタルコンテンツに関する著作権法上の課題
— 情報社会におけるプライバシー・個人情報保護の保護
— 知的財産権法制度の日本比較 など

◆研究指導内容概略

情報ネットワーク社会においては、従来の法制度が想定していなかった状況が多数発生している。研究指導においては、まずこのような社会的状況の中でのような法的問題があるのか、共に「問題発見」をし、そしてその問題を解決するための「課題を抽出」し、課題に対する「解決」を提示することを目指す。
学術的なアプローチだけではなく、他の研究分野の視点も取りこみ、学際的に情報ネットワーク社会の法的課題について検討をしていくことを目指す。

◆略歴・学会活動等

慶應義塾大学環境情報学部卒業、同大学院政策・メディア研究科修士課程、博士課程修了。国立情報学研究所特任助教、ジョージワシントン大学ロースクール客員研究員を経て、平成23年講師就任。
情報ネットワーク法学会、著作権法学会、情報通信学会、日本教育工学会所属。

デジタル・クリエイター

教育研究分野

現代の文化状況及び情報科学の研究状況を踏まえ、コンピューター・グラフィックス、コンピューター・ミュージック、マルチメディアなどに関する最先端のスキルの学修を基礎とし、映像と音響というコンテンツ作製における主要な2領域において少人数の徹底した指導を行うことにより、単に個としての表現者にとどまらず、行政や企業の広報部門、マスコミなど、変化し発展する現代社会の多くの新しい領域で活躍ができる人材を養成します。

土山 泰弘 教授

文学修士(北海道大学)

◆研究テーマ例

ヴェーダ写本の校訂研究
古代インドの王権祭祀
古代インドの宗教思想

◆研究指導内容概略

古来より宗教は文化の中核的な役割を担い、文化の発展・変容に指導的な役割を果たしてきた。とくに南アジアには古代からの伝承が豊富に残されており、それらは南アジア世界のみならず、古代世界一般の宗教的な表象や思考を理解する上で貴重な資料を提供する。様々な資料にあらわれた神話的表象、宗教観念、ならびに儀礼行為などの宗教現象の検討を通して、南アジアを中心とする古代世界の精神構造について総合的に研究する。

◆略歴・学会活動等

北海道大学非常勤講師を経て、平成14年本学助教教授就任、平成18年現職。
日本宗教学会、日本南アジア学会、日本印度学仏教学会等

佐藤 由美 教授

博士(教育学)(青山学院大学)

◆研究テーマ例

戦前の台湾・朝鮮からの留学生研究
台湾・朝鮮植民地教育令の比較研究
近代日本のアジア教育認識

◆研究指導内容概略

国際交流が盛んな現代社会では、異文化間コミュニケーションが必要とされる機会が多い。言語や宗教、風俗、習慣などが異なる人々と豊かなコミュニケーションを築くには、他者(異文化)に対する理解が不可欠である。そこで、日本と最も関係の深い韓国をはじめとする東アジア地域の歴史を学ぶことによって、生活習慣や思考様式の共通点や差異がどこから生じるのか、また、日本のアジア認識がどのように形成されたのかを調査・分析する。

◆略歴・学会活動等

青山学院大学・専修大学非常勤講師を経て、平成18年本学助教教授就任、平成22年10月より現職。
教育史学会、日本教育学会、アジア教育学会

中川 善裕 教授

芸術学修士(東京藝術大学)

◆研究テーマ例

デジタル音響機器による音楽表現の可能性とその応用/
Max/mspを用いたインタラクティブ作品の制作/
Maxを用いたアルゴリズム作曲法/
Csoundを用いた音響合成と音楽制作

◆研究指導内容概略

近年、発達目覚ましいコンピュータ等のデジタル機器の登場によって、音楽制作の様相は著しく変化してきた。五線譜と鉛筆と楽器と演奏者、そして録音スタジオが一つのノートパソコンに収まるようになった今では、単なる効率性の追求という意味合いだけではない音楽的内容の変化の可能性も秘めている。それらの可能性に目を向けながら、新しい時代の音楽表現法を教育研究する。具体的には、コンピュータ上で合成された音と現実の音を用いた音響作品の制作や、アルゴリズム作曲、コンピュータ援用作曲など、作曲家の思考をコンピュータ上で行う可能性を教育研究する。

◆略歴・学会活動等

洗足学園音楽大学・東京藝術大学非常勤講師を経て、平成18年本学助教教授就任。
日本作曲家協議会、日本電子音楽協会、音楽情報科学研究会

榎上 誠 准教授

修士(メディアデザイン学)
(慶応義塾大学)

◆研究テーマ例

コンピューター・グラフィックスを用いたデジタルコンテンツ制作/
実写合成及UVFX

◆研究指導内容概略

メディアに付加価値を与えるデジタル化されたコンテンツは人々を心豊かにするという重要な役割を担っている。人々に楽しさや感動を身えられるデジタルコンテンツを創造するために必要な知識及び技術を修得できるよう指導する。研究過程においては、主に2DCG、3DCGを用いた実製作を通じ、必要とされる知識や技術を吸収しながら、豊かな創造力と表現力を身につけてゆく。

◆略歴・学会活動等

女子美術大学専任助手、非常勤講師を経て平成22年度本学講師就任。ACM SIGGRAPH、早稲田大学エジプト考古学学会平成24年現職。

◆研究テーマ例

コンピュータ・グラフィックス／メディアアート／インタフェースデザイン／
AR(拡張現実)／MR(複合現実)／共感コミュニケーション

◆研究指導内容概略

人間の感覚を拡張するデジタル技術によって、アート表現や
コミュニケーション手法は大きく進歩する可能性を持っている。
研究指導においては、コンピュータを利用した映像やメディア
アート、デジタルアニメーションや3D、2D造形デザイン等の
制作活動を通じて、クリエイターに求められる創造性や汎用的な
知識の修得を目指す。

◆略歴・学会活動等

埼玉女子短期大学大学准教授・玉川大学リベラルアーツ学部
非常勤講師を経て、平成27年本学准教授就任。情報処理学会、
ヒューマンインタフェース学会所属、財団法人画像情報教育
振興協会認定CG講師

◆ 情報社会専攻授業科目 ◆

研究科共通科目

人間学特別輪講
コミュニケーション特別輪講
知識情報特論

専攻共通科目

情報セキュリティ特論
ヒューマン・インターフェース特論
知的財産権特論

人間学特別演習 I (宗教)
人間学特別演習 II (東洋思想)
知識情報特別演習

コミュニケーション特別演習 I (英語資料演習)
コミュニケーション特別演習 II (Academic Writing)
コミュニケーション特別演習 III (異文化理解)

情報社会システム教育研究分野

情報社会特別輪講
システム開発方法特論
社会シミュレーション特論
ネットワーク・システム特論
意思決定支援システム特論
地域情報化特論
経営情報システム特論
企業戦略特論
e-ビジネス特論

情報社会特別演習 I
情報社会特別演習 II
情報社会特別演習 III
情報社会特別演習 IV
情報社会システム創造プロジェクト特別演習
(I, II, III, IV)

特別研究

デジタル・クリエイター教育研究分野

文化研究特別輪講
知覚心理学特論
イメージ創造特論
マルチ・メディア情報処理特論
映像情報特論
デジタル音響表現特論
メディア作曲法特論

文化研究特別演習
情報表現特別演習(I, II, III, IV)

特別研究

心理学専攻

実験心理学

教育研究分野

実験心理学教育研究分野は、心を生み出す脳の仕組みや働きを研究する脳科学、知覚や思考などの情報処理プロセスを研究する認知科学、人間行動の基本原理を研究する行動科学の3領域を中心に、カリキュラムが構成されています。これにより、最先端の実験心理学研究に寄与しうる研究技術者の養成を図るとともに、心理学関連の専門職(心理職公務員等)への就職あるいは大学院博士課程に進学し、研究者となることが可能な人材を教育することを目指しています。

亀谷 秀樹 教授

博士(医学) (東邦大学)

◆研究テーマ例

老化の生物学的メカニズム
認知機能の加齢変化とその神経機構

◆研究指導内容概略

本研究室では、加齢に伴う認知機能の低下を予防・改善する方略について、研究を進めている。現在、海馬やマイネルト核を損傷したラットの記憶障害を開薬系幹細胞移植によって改善できるかどうか、実験を進めているところである。また、テアニンなどのアミノ酸を含んだ茶根抽出液を長期間マウスに飲用させて、認知機能の加齢変化に及ぼす影響について検討を行っている。これらの研究プロジェクトを通して、研究指導を行う。

◆略歴・学会活動等

東京都老人総合研究所研究員、米国ネタ大学客員研究員、米国立老化研究所(NIA)客員研究員、三菱化成生命科学研究所特別研究員、福岡県立大学教授等を経て、平成15年本学教授就任。日本生理学会、日本神経科学会、米国神経科学会、ニューヨーク科学アカデミー

曾我 重司 教授

博士(学術) (千葉大学)

◆研究テーマ例

奥行き知覚に関する現象的研究
運動の知覚に関する現象的研究

◆研究指導内容概略

・運動対象の速度知覚、時間知覚の現象的・実験的研究
・奥行き知覚に関わる規定要因の現象的・実験的研究
以上のテーマを基本とし、現象をいかに捉えるか、観察するということとはどのようなことか、について教育指導を行う。特に現象的視点から、動き、奥行きなどの知覚についての環境からの情報は何か、また有機体がどのように環境に働きかけた結果そのような知覚が生じるのかについての研究を行う。

◆略歴・学会活動等

千葉大学教務補佐員、慶應義塾大学非常勤講師等を経て、平成14年本学助教就任。平成23年より現職
日本心理学会、日本基礎心理学会、日本アニメーション学会、日本応用心理学会

河原 哲雄 教授

教育学修士 (東京大学)

◆研究テーマ例

言語理解と知識・概念の獲得
推論と問題解決
顔・表情の情報処理と対人認知

◆研究指導内容概略

人間が経験からの帰納によって知識や技能、言語能力などを獲得するオンライン認知過程を、心理学実験やコンピュータ・シミュレーション、理論的検討などの手法を用いて研究する。また、獲得された知識や技能、能力の現実場面における使用過程や、それらが現実場面において有効に機能するための条件といった教育的含意についても研究する。これらの研究領域における最先端の研究を遂行するために必要な、研究計画法やデータ解析法、シミュレーション技法や、各種の実験機器の使用法などについても研究・指導する。

◆略歴・学会活動等

東京大学大学院助手を経て、平成15年本学助教就任、平成24年現職
日本認知科学会、日本認知心理学会、日本心理学会、日本教育心理学会、日本基礎心理学会、人工知能学会、日本神経回路学会等

大塚 聡子 教授

博士(心理学) (東京大学)

◆研究テーマ例

3次元空間知覚の特性
視覚的注意の時空間特性
観察者の運動と対象・空間認知

◆研究指導内容概略

人間が周囲の状況を知覚し認識する機構を統合的に検討し理解するために、3次元的な空間の認識とその時間特性を主要な主題として研究する。視覚を含む多感覚様相処理や選択的注意、または観察者自身の要因などを積極的に複合的に扱う。そのために、実験心理学的な手法を中心とし、必要に応じて観察者の生理的指標の取得や運動計測、データ解析および理論的検討方法を加える。これにより実験研究を遂行するために必要な手法の指導を行う。

◆略歴・学会活動等

東京大学IML研究機関研究員等を経て、平成14年本学講師就任、平成17年准教授、平成26年現職
日本心理学会、日本基礎心理学会、日本視覚学会、日本認知心理学会
アメリカ視覚眼科学会等

臨床心理学

教育研究分野

この教育研究分野は臨床心理士を養成することを目的としています。平成19年3月に、臨床心理士資格認定協会の規定する第1種臨床心理士養成課程の指定を受けました。カリキュラムは、研究科共通科目及び日本臨床心理士資格認定協会の指示する第1種指定大学院カリキュラムに準拠する科目で構成しています。また、大学に附置する臨床心理センターに心理相談室を設けて実習施設とし、一般の外来相談を受けて、臨床心理士の資格を持つ教員及びカウンセラーの指導のもとに、学生の臨床心理実習を行います。

三浦 和夫 教授 教育学修士(上智大学) 臨床心理士

◆研究テーマ例

心理療法プロセスに関する研究
箱庭療法に関する研究

◆研究指導内容概略

主に個人心理療法に関わる領域の研究をおこなう。また、家庭教師やボランティアといったいわゆる非専門家によるアプローチにも関心を持っている。

この他、個人あるいはグループによる箱庭療法によるアプローチを指導する。

◆略歴・学会活動等

平塚市教育研究所教育相談員、目黒区守屋教育会館教育相談室教育相談員、山王教育研究所カウンセラーを経て、平成14年本学准教授就任、平成20年現職。

日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会

小野 広明 教授 修士(文学)(北海道大学) 臨床心理士

◆研究テーマ例

犯罪・非行の原因／犯罪・非行からの更生策
犯罪被害者の心理／犯罪被害者支援のあり方

◆研究指導内容概略

犯罪(少年非行を含む)という司法手続きの対象となる行動のほか、社会的に負の制裁を受ける逸脱行動(迷惑行為)の領域を扱い、犯罪の原因、加害者の心理、更生の手立てに関する研究を指導する。併せて、犯罪被害者の心理及び犯罪被害者支援のあり方について指導する。

◆略歴・学会活動等

法務省富山少年鑑別所長を経て、平成22年本学教授就任。

日本犯罪心理学会、日本社会心理学会、その他

巖 秀章 教授 博士(教育学)(国際基督教大学) 臨床心理士

◆研究テーマ例

集団精神療法におけるグループ・プロセスと治療的变化との
かかわり／教育共同体への集団精神療法的介入の実践／
心理教育の実践と有効性／情報共同体と心理支援

◆研究指導内容概略

集団精神療法やグループ・アプローチ、学校臨床心理学等に関する
領域を指導する。集団精神療法およびグループ・アプローチの有効性、
グループ・プロセス、運営の仕方、教育共同体としての学校組織と
臨床心理学のコラボレーション、学生相談、摂食障害、人格障害等に関
することが課題となる。

◆略歴・学会活動等

日本女子大学専任カウンセラー(助教授待遇)を経て、平成19年
本学准教授着任。平成24年現職。

日本集団精神療法学会理事、日本教育心理学会、日本心理
臨床学会、日本精神分析学会、日本健康心理学会、Academy for
Eating Disorders, World Federation of Mental Health 等

友田 貴子 教授 修士(心理学)(東京都立大学) 臨床心理士

◆研究テーマ例

抑うつ気分からの回復と心理社会的要因の関連について/
スポーツ・遊びと精神的健康

◆研究指導内容概略

社会臨床心理学に関わる領域の研究を主に扱う。例えば、
ストレス、原因帰属過程、ソーシャル・サポートなどが精神
疾患(うつ病や不安障害など)や不適応の予防、発症、回復
などにどのような関連があるのかということについて検討
する。とくに対人相互作用と精神的健康との関連について、
社会心理学のパラダイムを取り入れ検討していく。
対人相互作用による個人内および個人間の心理的過程が
精神的健康とどのような関連を持つか、精神保健の観点も含め扱う。

◆略歴・学会活動等

立教大学非常勤講師、日本医科大学付属病院心理判定員、
国立精神・神経センター精神保健研究所流動研究員等を経て、平成16年本学
講師着任、平成27年より現職。日本心理学会、日本社会心理学会、日本心理
臨床学会、日本パーソナリティ心理学会、日本うつ病学会、American Psychologic
Association

藤巻 るり 講師 修士(文学) (上智大学)
臨床心理士

◆研究テーマ例

幼児や発達障害児のプレイセラピーにおけるアプローチに関する研究
イメージを心理療法の視点として用いる研究
治療者の意識化過程に関する研究

◆研究指導内容概略

心理療法という営みを媒介している治療者の意識化過程について研究を行っています。また、カウンセリングにおける語りの内容のみならず、語りにならない症状や問題行動、意味の成立以前の未分化な世界、に耳を傾ける方法としてイメージという視点を重視しています。

起きている出来事の中に入り込み、そこで感じたことを意識化という広義の臨床的態度に基づく研究を支援します。

◆略歴・学会活動等

世田谷区教育相談室教育相談員、東村山市幼児相談室幼児相談員、
熊谷神経クリニック・カウンセラーを経て、平成25年本学専任講師就任。
日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本エンゲル心理学会

◆ 心理学専攻授業科目 ◆

研究科共通科目

人間学特別輪講
コミュニケーション特別輪講
知識情報特論

実験心理学教育研究分野

実験心理学特別輪講Ⅰ	生理心理学特別演習	実験心理学特別実験Ⅰ
実験心理学特別輪講Ⅱ	神経生理学特別演習	実験心理学特別実験Ⅱ
生理心理学特論	認知心理学特別演習	
神経生理学特論	知覚心理学特別演習	特別研究
認知心理学特論	視覚情報処理心理学特別演習	
知覚心理学特論	学習心理学特別演習	
視覚情報処理心理学特論	老年心理学特別演習	
学習心理学特論		
老年心理学特論		
心理学研究法特論		
社会心理学特論		
犯罪心理学特論		
障害者(児)心理学特論		

臨床心理学教育研究分野

臨床心理学研究法特別輪講	認知心理学特論	※ 臨床心理査定特別演習Ⅰ
※ 臨床心理学特論Ⅰ	犯罪心理学特論	※ 臨床心理査定特別演習Ⅱ
※ 臨床心理学特論Ⅱ	社会心理学特論	
※ 臨床心理面接特論Ⅰ	神経生理学特論	※ 臨床心理学基礎実習Ⅰ
※ 臨床心理面接特論Ⅱ	老年心理学特論	※ 臨床心理学基礎実習Ⅱ
	障害者(児)心理学特論	
	心理療法特論	※ 臨床心理基礎実習Ⅰ
	学校臨床心理学特論	※ 臨床心理基礎実習Ⅱ
	グループ・アプローチ特論	
	箱庭療法特論	※ 臨床心理実習Ⅰ
	乳幼児心理学特論Ⅰ	※ 臨床心理実習Ⅱ
	乳幼児心理学特論Ⅱ	
	思春期・青年期カウンセリング特論	特別研究
	精神医学特論	
	学習心理学特論	※ の科目は、他教育研究分野の学生は受講できません